

pen

with New Attitude

3/1

2020 No.4

定価 70
y

ひとり、 籠る宿。

第2特集

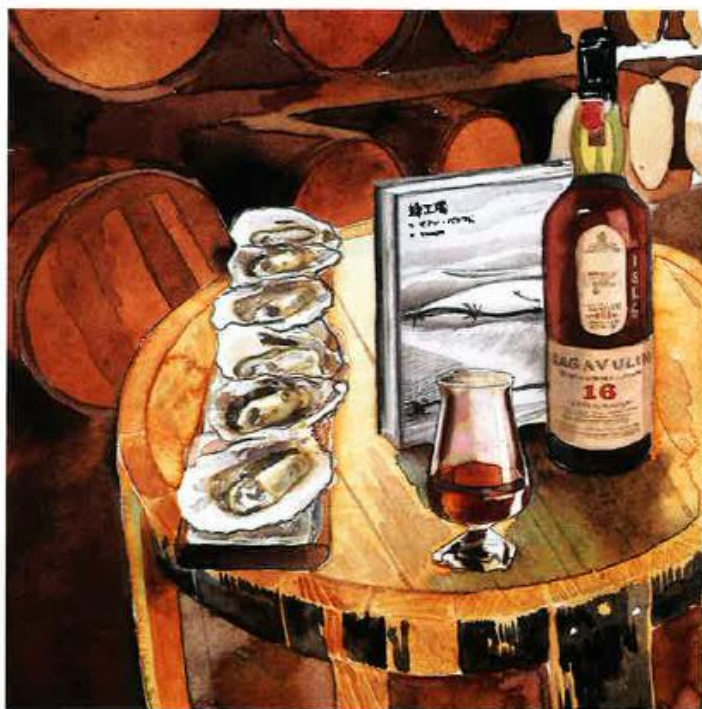
続々オープンする、
注目ホテル最新案内。



※ウイスキー専門誌「Whisky Galore」やPenなどのライフスタイル誌、ウェブメディアなどで執筆。2019年からスタートしたTWSC(東京ウイスキー&スピリッツコンペティション)では審査員も務める。

[シングルモルト ● ゴシック・ミステリー ● スコットランドの島] Yoshitaka Nishida 西田嘉孝

ウイスキーと文学の傑作を、風土ごと味わう。



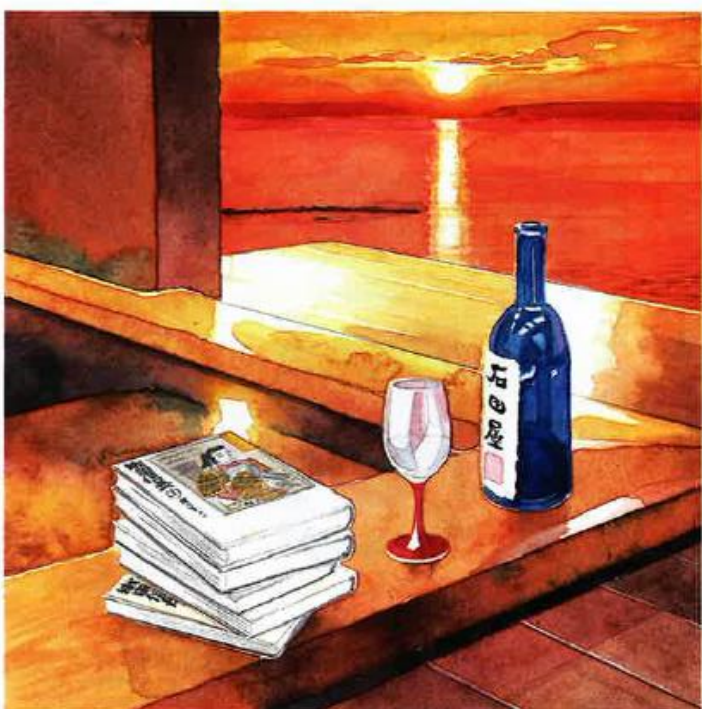
スコットランドの名もなき島で採集する、島外不出のウイスキー蒸留所。そこに併設された小さな宿が、今回の妄想旅の“籠り先”だ。見渡すばかりのビートの原野や空を飛びカモメの群れ、そして荒波が打ち付ける海沿いの熟成庫…。窓の外に広がるそんな風景を眺めつつ、まずは潮風の薫るアイラ島の銘酒「ラガヴァリン16年」をストレートで。相棒に選んだ1冊はイアン・バンクスの『蜂工場』。まさにスコットランドの離島が舞台の英国ゴシック・ミステリーの傑作である。

自らが愛飲していたスコッチウイスキーの2銘柄から、“ジョンBマッカラン”なる幻のペンネームも考えていたというイアン・バンクスの。そのうちブレンデッドウイスキーのジョニー・ウォーカー黒ラベルには、重要な原酒としてラガヴァリンも使われている。衝撃のラストまで細密に紡がれる物語と同様に、刻々と変化する重層的な香味と深い余韻が楽しめる「ラガヴァリン16年」は、島の名物でもある牡蠣に垂らしても最高だ。持参した1本を飲み切った後は、蒸留所の熟成庫で眠りにつく樽から直接ウイスキーをグラスに注いで…。妄想とはいえ、実に贅沢なひと時だ。

※トータル飲料コンサルタント。ワイン・日本酒・焼酎・ウイスキーなど全酒類を扱う。お酒でおもてなしができる会員1700名を率いる(一社)SAKE女(サケジョ)の会代表理事。日本酒の普及に奔走中。

[日本酒 ● 歴史小説 ● 福井の温泉宿] Akiko Tomoda 友田晶子

露天風呂で文庫を読みつつ、日本酒をちびり。



とにかく極上の蟹を食べたいのである。それも一人で籠りつつ邪魔されず…。蟹と蟹の間に温泉につかり、波の音をバックにトロリとろける美酒をなめつつ時代小説を読みたいのである。わが故郷・福井は三国の名料亭旅館「望洋楼」の露天風呂付きの一室。世界中の美食家が予約したがる部屋に陣取り昼はセイコガニ(メス)、夜は越前ガニ(オス)を堪能する。合間に、日本海に浮かぶような、波が打ち付ける露天に入り『山岡荘八歴史文庫 織田信長 全5巻セット』を読む。

山岡荘八は徳川家康のほう知られてるけれど全26巻と長い。5巻がちょうどいいし、信長を描いた数々の歴史小説の中で最もかっこいい信長を堪能できる。それに文庫はお風呂の中で読みやすい。酒は、信長の時代に合わせてどぶろくといいたいところだけど、越前の銘酒「黒龍」の中でも希少価値の高い「石田屋」を海風の温度でちびりとやる。酒は、風呂に入りながら飲む。蟹と一緒にいいけれど、なにせ、蟹は両手を使いジューシーな汁をほとばしらせながらむしゃぶりつくのがおいしいから、どんなに旨い酒でも、二の次になっちゃうからね。

ウイスキー、日本酒、ワインにシャンパーニュ……。酒と本と旅を愛する吉き手4人が、お気に入りの酒瓶と書籍を抱えて籠りたい場所を妄想しました。

妄想企画、あの酒と本を抱えて向かう先はココ！